

第17節 ふたご、ふたごのパンダに会う

はじめての家族5人旅（第12章第15節）から7ヶ月。うららかな春の日に、ふたごのパンダに会いに行った。

オールウェイズ トウギヤザア みらいのドアあなたとふたりでえ……

この歌がわかる人は、たぶん“ふたごのパンダ”をTVのCMで見たことがあるはず。

和歌山県白浜町にあるアドベンチャーワールドで、2003年9月8日にふたごのパンダが生まれた。CMでは、おかあさんパンダにまわりつく、小さくても立派に白黒模様のパンダが映し出され、「会いに来て！」と訴える。彼らが6ヶ月になったとかで、ふたごのパンダ特集の2時間番組さえ放送され（たぶん関西だけ？）……それを見た夫は、「早よ会いに行かへんかったら、こいつら大きなりよる！」

つまり、パンダが小さくてかわいい間に、うちのふたごと対面させよう、と言うのである。ちょっと親バカ。

世のふたごちゃんのおとうさんはどうなのか不明だが、うちの夫は“ふたご”という言葉に敏感で、そのCM以来ずっと白浜アドベンチャーワールドに行きたがっていた。しかし、ぜんそく持ちのタイを冬に旅行に連れ出すことは嫌であったし、何よりも寒さに弱い私がつぶっていたので、少し暖かくなった春休みに決行するに相成った。

地図で見ると、白浜は京都からなら近く、日帰りでも行けそうな感じなのだが、7歳、4歳、4歳を連れて行くとなれば難しく、1泊2日の予定を立てねばならない。

白浜アドベンチャーワールドは、動物たちのワールドサファリや遊園地、マリンワールド（水族館）に分かれており、一度入園すれば、あれもこれも楽しめる。半日ゆっくりするために1泊は必須なのだ。

出発日が迫っているので近くのホテル・民宿などは軒並み満室。だって、白浜って温泉町なのだ。どうせ行くなら温泉がいいよねえー。でも、いつもこどもの体調やお天気がきになる我が家では、直前予約・即出発がモットー。

で、温泉はあきらめて、1泊目は白浜まで電車で1時間も離れた和歌浦に宿泊することにした。

こどもたちの「パンダはどこ？」をよそに、西国三十三ヶ所第2番札所の紀三井寺で早咲きの桜を楽しむことからスタートした。

遠くに和歌山マリーナシティ（世界リゾート博覧会跡地）の観覧車がかすんで見えるから、こどもたちは「あそこに行きたい！」コールで攻めるが、レジャーランドばかりに行くのは嫌な夫と私は、旅の第一日目は大人風の旅程にしたかった。

荷物を先に旅館に預けるために乗ったタクシーの運転手さんも、「マリーナシティには行かないの？」と、解せない顔。こども連れで名所旧跡めぐりは変か？

「今日の晩ごはんはきっと豪華やし、お昼は……モスバーガー！」

紀三井寺参拝の後でテイクアウトして、奥和歌大橋を望む小さな海岸で食べた。普段ハンバーガーを買い食いすることなど滅多にないので、こどもたちはこれだけで満足そうである。

お陽さまのキラキラする中、楽しい昼食。その後キャアキャア言いながら海に向かって石投げをし、カニや貝を探し……とことん遊んだ。

結構な体力を使ったあと、徒歩で観光。横を車が通るクネクネ道をアメちゃんを食べながらてくてく歩き続ける。

海面が光っている、潮風が気持ちいい、漁船がある！即見学。トンネルだ！オバケが出るかも？この辺でジュース休憩……。

まったくいつの間にこんなに脚力がついたのだろう。こどもたちはよく歩く。大きくなったなあって実感するひとときだ。

できるだけ歩くのが基本である我が家の移動方法を忠実に守って、脇道、横道、道草はとっても楽しい。

いい加減歩きつかれた所で、和歌浦天満宮の急階段、紀州東照宮の石段でとどめをさされる。

「また階段や！もうイヤぁ！」と寝転んでいる。

「ほな、さいならぁー」と追い抜いて歩いていくと、

「あーん、待ってえ！！！」とちゃんとしてくる。

そんなこんなでもものすごく歩いた一日目を、大きいお風呂と食べきれないほどの夕食でしめくり、明日のパンダご対面に備えた。

さて、待望の白浜アドベンチャーワールド。

入り口からパンダ色って感じ。サファリにはキリンもゾウも放し飼いになっているのに、パンダしかいないみたいじゃない？

ここまで来たのだが、パンダを先に見てしまうのが少し惜しい気がして、サファリワールドから回ることにする。電車の形をしたバス（ケニア号・無料）に乗り、25分かけて一周することにした。

「ゾウさんや！いっぱいいるう！」

「あ、ほんまや！」と言う間もなく、バスと並行して歩いている人を発見。同時に、自転車で乗っているファミリーも発見。

「へっ！？」

なんと、ここにはウォーキングサファリツアー（無料）というのがあり、自由にサファリ内を歩けるようになっていたのだ。予習不足を実感、反省。

ライオンやトラなどの肉食動物の区域は高架になっていて、人間がオリの中に入っている状態でライオンに近づける場所もある。なるほど。

もちろん我が家の面々はバスに乗車後3分で、あとでウォーキングサファリ（約50分）

することに決定、実行。ほんま、よう歩く。

やぁやぁ、お待たせしました。パンダであります。

たくさんの方が並んでいる。少しずつ列が進む。2時間パンダ特集のテレビで観たとおりの建物であるから、もうすぐガラス張りのパンダ室内運動場が見えるはず……。

オーッと！見えた！……あーっ！寝てる！ふたりとも寝てるやん！

そう、広～い部屋のドアに近い片隅でふたり固まって寝ているではないか。白黒模様はわかるけど……ああ、京都からはるばる会いに来たんだよ。うちのお兄ちゃんとふたごたちが会いに来たんだよ。

少しずつ歩みを進めながら、ずーっと起きるように念力を送り続けても、一向に起きる気配はない。

パンダのおかあさんは、ふたごを横目に壁にもたれて、豪快に笹を食べた後、ノッシノッシと歩いて木製の台に横たわり、昼寝。一旦寝たら微動だにしない。

でも、私は非常に嬉しかった。もう、パンダのおかあさんが他人とは思えないほど、親近感がわいて……。ふたごを産んだ者同士っていうのだろうか。

「アンタも大変。よう頑張ってるなあ、子育てしんどいやろ？ふたりいっぺんやもんな。ええやん、昼寝しても、ゆっくりしいな。(でも、お尻ちょっと汚いな)」

3人とも寝てしまっただけのものの、私の子育ても癒されていくような変な感覚。できればパンダおかあさんとお茶でもしてゆっくり話したいくらい。

入口に置いてあったパンダブックによると、おかあさんパンダの梅梅(メイメイ)はふたごのパンダである隆浜(リュウヒン)と秋浜(シュウヒン)の前に良浜(ラウヒン)と雄浜(ユウヒン)をご出産なさっており、私よりも出産回数が多い。それだけでも尊敬もんである。

世界のパンダ飼育状況の中では人工授精がほとんどであるのに、おとうさんの永明(エイメイ)とは自然繁殖である。もちろん、帝王切開ではない。(オホホー！私と一緒に！)

もともと、人間と同じくひとり産むのが普通で、もちろん単胎出産よりもふたご出産の方が生存率は低くなるそうだし、加えてパンダおかあさんがふたごを初めから育てるのは世にもめずらしいことであるらしい。

16時29分に167gの隆浜を産み、彼を片腕に抱いたまま18時40分に106gで秋浜を産んで体をなめたそう。ああ、私もリョウとタイのふたご出産を思い出すではないか。

梅梅おかあさんは片腕ずつにふたごを抱いたり、ふたごを抱っこしたまま昼寝もできるスーパーパンダおかあさんであるって聞いたときには、もう、あのガラス張りのパンダ運動場に私も入り、抱き合って「これからも頑張っていこうね」と誓いを立てたい衝動にかられた。

ああ、やっとかぶりつきでパンダを見られる！これ、リョウよ、タイよ、パンダさんだよ、会いに来たよって言うてごらん！(大きい声で言うてみ！起きるかも知れん！)

端に立っているパンダ係のお姉さんが、ふと視線を落として声をかけてくださった。

「あ、もしかしてふたごちゃん？」

「ああ、ふたごのパンダを飼育している人って、人間のふたごもわかるんや！」軽い感動を覚える私であった。

「そうです。京都から会いに来たんです。でも寝てるんですねー」と言うと、お姉さんは、

「午前中は1時間半くらいコロコロふたりでよく遊んでたんですよ。」

あー残念。

屋外では良浜と雄浜が取っ組み合いのようにじゃれ合い、文字どおりコロコロ遊んでいる。おとうさんパンダの永明はひたすら笹を食べている……それもお尻を向けたまま。

人だかりは動かない。やはりパンダが一番人気だ。

その後、マリンワールド（水族館）でシャチとイルカのショーを観たり、観覧車に乗ったりした後も、パンダは起きていないか見に行ったが、ひとりが木の上に登ってじっとしているだけで、ふたりでコロコロ遊ぶ姿は見られず、まだ寝ているおかあさんパンダに「また来るね」と、いつ叶うかわからない約束をつぶやき、梅梅おかあさんがふたごたちを両腕に抱いている写真を1枚100円で買って帰途についた。

隆浜くん、秋浜くん、元気に大きくなあれ。少し先に生まれたうちのふたごたちも、お兄ちゃんと一緒に元気に大きくなるからね。

家に帰ってから、こどもたちに「何が一番楽しかった？」って聞いてみた。

リョウ「石投げ」

タイ「カニ」

マサミツ「旅館のエアホッケー」

私「絶句（……パンダは？）」

どうやらふたごのパンダに会えて大満足したのは私だけ？タイトルを変更しなければ…
…。第17節 ふたごの母、ふたごパンダの母に会う。

とりあえず第2回目の家族旅行、終了！

100円のパンダ写真はキッチンに貼ってある。ちょっとしたお守りみたいに。

白浜アドベンチャーワールド（2004年3月現在）

〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田 0739 43 3333

<http://aws-s.com>

入園券 大人（高校生以上）/ ¥3,500 中人（小・中学生）/ ¥2,300

小人（3歳以上）/ ¥1,700 シニア（60歳以上）/ ¥3,100

パンダに会える時間 9：30 17：00